

発行所 〒160-0017
東京都新宿区左門町11番地6の101
社団法人 大学婦人協会
電話 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889
http://www.jauw.org
E-mail:jauw@tky2.3web.ne.jp
発行人 今井けい
編集責任者 松本佳子

J A U W

おもな記事

- 1面 第48回通常総会ご案内、総会関連記事、第7回守田科学研究奨励賞贈呈式のお知らせ
- 2面 2005年度(社)大学婦人協会予算書(案)、Q&A IFUWについて青木怜子氏にきく(国際委員会)

第48回 通常総会のご案内

日時 2005年4月10日(日) 9時～16時 場所 横浜プリンスホテル「緑の間」 会費3,000円

第25回IFUW総会が横浜で開かれてから10年になりますが、この度、その横浜でJAUW総会が開かれるのを感じ深く思います。1995年はまだ日本の経済状況もよく、会員の皆様はもとより、神奈川県や横浜市あるいは経済界からもいろいろな形でご支援いただき、華やかで楽しくかつ充実した一週間余を、IFUW会員とともに過ごすことができました。

IFUWは昨年末タスクフォース報告書を提出し、IFUWを「教育を通して女性と女性のエンパワーメントを図る指導的な国際的組織」と定義しています。これはJAUWにも適合するでしょう。ただ教育の内容は、各国の政治・経済・歴史などの相違によって大きく異なることも事実です。わが国では女性の高等教育への進出は、短大も含めるとほぼ半数に達しましたが、残念ながら経済的自立には必ずしも結びついていません。教育の自身と雇用のあり方を検討する必要があります。

他方、今年は「中東女性交流」の担当団体として、すでに支部でもイスラム文化や政治の学習を始めておられます。多文化理解は私たち自身の教育であるばかりでなく、平和への強い礎にもなります。中東からの客人と豊かな文化的交流を果すためにも、皆様とともに、総会で準備のためのお話し合いをしたいと思います。

もちろん、若い人たちの更なる教育の向上のために、「国内奨学金」の充実についてもお話ししたいと思います。

歴史的伝統を大切にしながら、新しい都市づくりに挑戦している国際都市、横浜で、一人でも多くの会員の方々にお目にかかるのを楽しみにしています。神奈川県支部の方々は心をこめて、楽しいエクスカージョンをはじめさまざまな準備をして下さっております。

2005年3月1日

支部長懇談会・懇親会・見学会のご案内

神奈川支部長 西村寿美子

第48回通常総会が横浜で開催されます。皆様の御越しを支部会員一同、心からお待ち申し上げます。

支部長懇談会
日時 4月9日(土) 15時30分～17時

懇親会
日時 4月9日(土) 18時～20時30分
会費 8,000円

食後、テノール歌手の下野昇さん(ピアノ伴奏・宇治田かおるさん)の独唱をお楽しみください。

*懇親会後、「IF「平安の間」にて、青木怜子会員・房野桂会員による講演「パースでのIFUW総会報告」を予定しています。貴重な機会ですので、多くのご参加をお待ちしています。

見学会(バスツアー)

① 古都鎌倉コース
8時30分ホテル出発。青木怜子・斎藤智恵会員の協力で行きます。鎌倉五山の第五である浄妙寺と竹の寺として有名な報国寺を(2グループに別れ)拝観。浄妙寺では、水琴窟のある日本庭園を眺めながらお抹茶をいただきます。その後、建長寺、縁切り寺として名高い東慶寺を拝観。「鉢の木」での昼食後、円覚寺へ。円覚寺は鎌倉五山の第二。有名な建物見学のほか、神奈川県では唯一の建物としての国宝(舍利殿)と「洪鐘」の特別見学をします。

円覚寺出発 14時45分 横浜駅到着 16時予定
参加費 8,500円

② 横浜エンジョイ・コース
8時30分ホテル出発。明治時代の富豪、原三溪によるコレクションおよび古建築が配されている。

2004年度国際奨励学生ひとり、プリヤンティ・マンガリカさん(スリランカ)の研究報告会が2月21日(月)アルカディア市ヶ谷で開かれました。今井会長はじめ出席者からは、スリランカの農業、教育、女性の生き方など、多方面にわたって質問が出されました。マンガリカさんはドクターを目指して、今後も日本で研究を続けられます。

三溪園を見学。外人墓地に移動してからは、徒歩でみなの見える丘公園や山下公園などを見学。徒歩が困難な方は、三溪園からバスに乗車、一足先に山下公園での散策などをお楽しみください。横浜中華街「順海閣」にて昼食後、中華街・元町を散策。山下公園からバスでみなのとみらい21地区まで遊覧、時間があれば赤レンガ倉庫などの散策。昔懐かしいチャイナタウンや異国情緒あふれる横浜に加え、近年目覚ましい変化を遂げている新しい横浜の顔も、お楽しみいただけます。横浜駅到着 16時予定
参加費 7,000円

*両コースとも、定員40名(先着順)
*軽装でお出かけください。
*両コースとも交通状況などによって内容に変更があります。
*横浜駅解散場所から駅まで徒歩7、8分です。ご注意ください。

会場(横浜プリンスホテル)への交通機関のご案内
最寄り駅は、JR根岸線磯子駅です。東海道新幹線、新横浜駅下車の方は、JR横浜線に乗り換え横浜方面へ。JR横浜駅(略図)を基本に、ホテルまでは磯子駅より徒歩5分。案内板に従ってお進みください。ホテル内の連絡橋(ブリンス・ブリッジ)まではマンション(磯子プリンスハイツ)内のエレベーターを利用。
なお、京急線、屏風ヶ浦駅からのシャトルバスは約20分おきの運行です。写真：みなとみらい↓

- ### 総会行事日程
- 4月9日(土)
- 臨時理事会
時間 13時～13時30分
場所 横浜プリンスホテル 1F 平安の間
- 評議員会
時間 13時30分～15時30分
場所 横浜プリンスホテル 1F 平安の間
- 支部長懇談会
時間 15時30分～17時
場所 横浜プリンスホテル 1F 平安の間
- 懇親会
時間 18時～20時30分
場所 横浜プリンスホテル 1F 緑の間
- 総会
時間 9時～16時
場所 横浜プリンスホテル 1F 緑の間

- ### 評議員会のご案内
- 日時 2005年4月9日(土) 13時30分～15時30分
場所 横浜プリンスホテル 1F 平安の間
- 右のとおり総会前の評議員会を開催いたします。
- 本部・支部の2004年度の事業報告および2005年度の事業計画は、会期までにお届けいたしますので、評議員各位にはご検討の上、ご出席くださいますようお願いいたします。
- 2005年3月1日
- 社団法人 大学婦人協会
会長 今井けい
- 評議員各位

社団法人 大学婦人協会 第48回通常総会次第

2005年4月10日 9:00～16:00

- 会議開始
- 総会成立確認
- 開会の辞 (逝去会員の冥福を祈って黙祷)
- 議長承認
- 書記選出
- 報告
- 事務会
- 委員
- 国庫補助事業
- 支部
- 会計
- 一般会計 2004年度収支決算並びに資産状況
- 特別会計 国庫補助事業収支報告
- 監査
- 議案
- 2005年度事業計画案
 - 総務
 - 委員会
 - 支部
- 2005年度予算案
- 国内奨学金基金設立について
- その他
- 懇談
- 定款改定(名称変更について)
- 日本中東女性交流について
- 財政問題について
- 若手会員育成金について
- IFUW総会報告
- 花束贈呈
前IFUW会長青木怜子氏
前IFUW女性の地位委員会委員房野桂氏
- その他
- 次期総会開催地について(承諾の挨拶)
- 開催地支部長挨拶
- 謝辞
- 閉会の辞

第7回 大学婦人協会 守田科学研究奨励賞贈呈式のご案内

第7回賞贈呈式および祝賀パーティーを開催致しますので、多数ご出席いただきたくご案内申し上げます。

日時 2005年5月7日(土)
贈呈式・受賞者講演 13時～14時30分
祝賀パーティー 14時40分～16時

場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL 03-3261-9921 JR、営団地下鉄、都営地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩3分

会費 2,500円
申込先 (社)大学婦人協会事務所
TEL 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889

新入会員(2名) 2005年2月

東京支部 栗原涼子(筑) 335-0023 戸田市本町5-5-25-504
金沢支部 萩原扶未子(南山) 920-0944 金沢市三口新町4-13-36

2005年度 社団法人 大学婦人協会収支予算書(案)

(2005年4月1日から2006年3月31日まで)

(単位:円)

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減(Δ), 備考. It is divided into two main sections: I 収入の部 and II 支出の部. Section I includes items like 基本財産運用収入, 会費収入, 補助金収入, etc. Section II includes 事業費, 経理費, 雑費, etc. Summary rows A-F are at the bottom.

Q & A IFUWについて、前IFUW会長青木怜子氏に国際委員会がインタビューしました

Q IFUWでは長期にわたり素晴らしいご活躍でした。でも、最初はどんな理解をお持ちでしたか。不安はありませんでしたか。

A IFUW総会に初めて全面的に参加したのは、1980年のバンクーバーでした。1974年の京都会議では部会の司会や通訳を引き受けましたが、まことに不勉強でした。でも、1969年大磯日米会議や1979年環太平洋地域会議で、発表や司会をし、徐々にIFUWの何たるかを知るようになったのです。高野先生が会長でいらした1982年に、ジュネーブでの評議会に出席した時は、ほとんど高野先生にぶら下がっていたようなものでした。言ってみれば、私のIFUWについての知識は積み重ね方式で、いまだに本当に把握しているのか自信がないところがあります。ですから、IFUWの副会長、そして会長を引き受けた時は不安のどん底で、もう這い上がれないのではないかと思ったほどです。ただ、今思ってもありがたいことは、高野先生をはじめ、中村道子、中村ミチコ、岡村和子、片山秀子、甘楽由香子さんといった方々からたくさん教わり、またご紹介いただいた旧友が今も世界中に多くあって、私を激励し続けて下さっていることです。それに、一緒に委員を引き受けて下さっていた房野桂さんが、絶えず励まし続けて下さったことも。

Q IFUW創設の経緯と主旨、そして国連との関係をおさらいさせて下さい。

A IFUWは、国連草創期の1948年から、経済社会理事会の諮問的地位を得て活動している数少ない国際団体です。創設者のひとりが国連憲章の前文起草に貢献したこともあって、世界平和を目指して国連が掲げる男女平等と人権擁護の理念はIFUWの目的にも叶い、活動の大きな後ろ盾です。その上ユネスコが特に、女性の高等教育促進を目指すIFUWに注目し、事業への参画を呼びかけてきます。国連のネットワークもIFUWを支え、同じ諮問的地位をもつ5つの団体(5-O)と協働して毎年国連の「女性の地位委員会」に対し、口頭・文面両様のステートメントを発表しています。現在IFUWの加盟団体は77カ国、会員数は約15万人です。

Q IFUW本部の活動は具体的にはどのように行わ

れているのですか。

A 理事会は、通常年1度、それに合わせて財務、会員、女性の地位等の委員会、また年度によって奨学委員会が開かれます。その際、ジュネーブ常駐の国連代表たちも合流し、意見や情報交換を行います。その他は、e-メールや電話で討議や議決すら行います。重要な案件や調査、準備、連絡が山ほどありながら、会議数を極力減らせるのは、ジュネーブの本部に常駐する事務局長以下、パートを含む6名のスタッフが大量の事務をこなしているからです。

Q IFUWに集められたお金の使途は。

A スタッフ給与、事務所賃貸費、事業費、理事・委員の交通費、隔年に贈る奨学金、NGO関連分担金、印刷・庶務費、税金その他です。収入は、加盟国からの分担金のほか、債券や国債、株式投資等、米国とスイスで専門家の助言を受け、多角的に資産運用をしています。

Q パース総会で会費が1人18フランに値上げされました。加盟国の経済事情はそれぞれだと思いましたが、各国の負担はどうなっているのですか。

A 各国は原則、会員数を乗じて会費を分担していますが、現在、1人あたりの国民所得の低い40カ国が58%~4%の減額措置を受け、会員数がかけ離れて多い米国とカナダも減額されています。事実、会員総数15万人のうち、米国11万人、カナダ1万人、3番目のオランダ4千人、4番目が日本と大きな開きがあります。米国には経営難に陥った1997年以降さらに臨時的減額があるのですが、それでもIFUWの会費全体の40%を米国が負担しているため、2005年に米国が会費を納入しないと、もろに40%の納費減収となるのです。一方、減免が認められた途上国の場合、実際には独自の事業開発をすることで会費納入が可能となります。皮肉にも、このピーナロイ事業支援金に最も多く拠出しているのが米国です。

Q 私たち一人一人がIFUWに会費を納めているという実感が持ちにくいのですが、JAUWの会員が財務内容を知る方策はありますか。

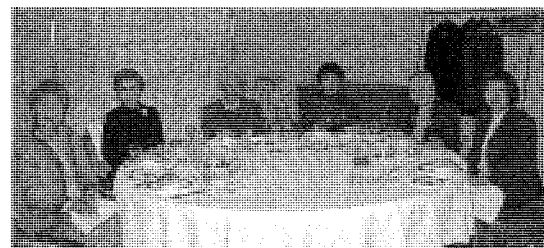
A 年に1度、理事会に暫定の会計報告があり、オブ

ザーバーとして理事会に出席すれば見聞きできます。また、総会と評議会で3年通算の会計報告がなされますし、国際委員長を通じて知ることも可能かと思えます。

Q 会長、あるいは会員としてのご経験から、IFUWの一員であってよかったと思われることは何ですか。

A IFUWは他の女性団体や学会組織とは違って、高学歴から得た自らの成果により、調査・研究・発表等を通じて自他を啓発し、社会に貢献しています。と同時に、修士や博士課程の研究者を育てる奨学金制度、特別な事情で勉学に支障を来たした高学歴者を支援するヘッグホフェットのほか、5-Oプロジェクトを通じて開発途上国の女性の教育的育成にも取り組んでいます。つまり、IFUWは自助事業だけの学会でもなく、援助をするためだけの団体でもなく、むしろ自己啓発の事業と社会貢献を平行して行っている団体であり、その会員として、誇りと横のつながりが持てる場所でしょう。国連のような複雑な世界機構についても、IFUWはその手本を示しながら、私に多くの知識の紐解きをしてくださいました。JAUWもIFUWに繋がっていることで、同様の価値体験を会員に与えていると思います。しかし、各国協会にとって何よりの効力は、1国1組織だけでは動かさなくとも、IFUWの77カ国がまとまって訴えれば、世界に向かって発信できることだと実感しています。

青木先生、どうもありがとうございました。



通常総会のための試食会(神奈川支部) 青木怜子さん、房野桂さんとともに(2月14日)

JAUWのホームページをぜひご覧ください。 http://www.jauw.org (情報委員会)